

JCMA 報告

ISO/TC 195 韓国・済州島 国際会議報告

標準部会

1. はじめに

毎年5月に開催されるISO/TC 195（建設用機械及び装置）、SC 1（コンクリート機械及び装置分科委員会）及び各WG（作業グループ）の国際会議が、平成19年5月9日～11日の3日間、済州島（韓国）の南岸（島の北端にある空港から車で約1時間）にあるShineville Resort Hotelの会議室で下記日程にて開催され、P（積極的参加）メンバーである日本からは、「コンクリート機械等分野の国際規格共同開発調査研究」事業（経済産業省施策）の一貫として、表—1に示す4名の関係者が日本代表として出席した。

- 5月9日 ISO/TC 195/SC 1会議（コンクリート機械：日本が幹事及び議長国）
 5月10日 ISO/TC 195/WG 5, WG 7及びWG 8（破碎機：日本がコンビナー）各会議
 5月11日 ISO/TC 195本会議

表—1 日本からの出席者

氏名	役割
大村 高慶	ISO/TC 195 /SC 1 議長
養安 豊彦	ISO/TC 195 /WG 8 コンビナー
渡辺 充	ISO/TC 195 国内委員会代表
阿部 裕	協会 ISO/TC 195 事務局, ISO/TC 195 /SC 1 及び WG 8 幹事

以下に各会議の概要を報告する。

2. 会議概要

1) 5月9日：ISO/TC 195/SC 1（コンクリート機械関係）会議

【出席者】：ポーランド（2）、ドイツ（3）、米国（4）、韓国（5）、中国（9）、スウェーデン（1）、日本（4）／大村高慶（議長）、阿部 裕（幹事）、養安豊彦、渡辺 充 計28名

SC 1のこの1年間の活動について、議長国日本から報告の後、推進中の2件（ISO 18651（内部振動機）及びISO 21573-2（コンクリートポンプ-2））の規格、新業務項目提案（以下NWIP）承認後に宙に浮いた形となっているコンクリートポンプ等の安全要求事項及び2件のNWIPについて、報告・討議・検討を行い、下記合意を得た。

① ISO/DIS 21573-2（コンクリートポンプ-2）

前回会議にて追加要求のあったダブルローラーロータリーポンプの計算式（日本が準備）等の審議を行い、合意に従ったFDISを日本が2007-07-31までに準備する。

② ISO/DIS 18651.4（内部振動機）

現在2007-6-19投票締切りで第4次のDIS投票にかけられており、今回FDISへ移行する賛同を得られない場合は自動的にキャンセルされることとなっている。しかし、会議で独、米、ポーランド間の意見調整を図った結果、現段階での合意が難しいことが判明、自動キャンセルを受け入れ、CDレベルから再スタートすることとなった。

③WG 1 コンクリートポンプ等－安全要求事項（NP 24313は一旦取り下げ）

コンビナーのMr. J. Bury（USA）が前回10月のMilwaukee会議にて、米国の規格を検討した結果、



写真—1 会場（Shineville Resort Hotel）

国別規格、法規との整合性を取るのが難しく本件は中止したいと主張したことを受けて、原案とCPMA（米国コンクリートポンプ工業規格）との比較表を日本が準備し、取扱上の取決め等は規格には含まれず問題はないと主張。中国、韓国はこの規格の必要性を主張した。中国は国内規格を提出し、各国これを含めて再検討・継続審議とすることとなった。尚、Mr. J. Buryはコンビナーを辞退、次回会議までに後継を指名することとなった。

④NWIP Floating machine - Safety

米国より新規提案したいと表明、承認された。

⑤NWIP Concrete batching plant - Safety

日本より新規提案したいと表明、承認されたが、小型ミキサは除くこととし、タイトルを一部変更することとした。

2) 5月10日：ISO/TC 195/WG 8（粗骨材処理用機械及び装置）会議

【出席者】：フィンランド（1）、中国（3）、韓国（2）、日本（2）／養安豊彦（コンビナー）、阿部裕（幹事）計8名

推進中の2件（ISO 21873-1（破砕機－用語及び仕様項目）及びISO 21873-2（破砕機－安全要求事項））について、報告・討議・検討を行い、下記合意を得た。

① ISO/DIS 21873-1（破砕機－1）

DISに対するコメントについて、討議しFDIS案を2007-06-30までに幹事国ポーランドへ提出することとした。

② ISO/WD 21873-2（破砕機－2）

WDに対するコメントについて討議し、CD案を2007-08-31までに幹事国ポーランドへ提出することとした。

3) 5月11日：ISO/TC 195 本会議

【出席者】：ドイツ（3）、スウェーデン（1）、フィンランド（1）、中国（9）、米国（6）、韓国（12）、日本（4）、ポーランド（2）／議長：Mr. Budny、幹事：Mr. Rozbiewski／書記：米国、ドイツ、日本より各1名計38名

TC 195 幹事国ポーランドの議長 Mr. Budny 氏の挨拶の後、議題に沿った報告・討議・検討が行われ、前2日間の会議の結果が承認された。

最後に、今回の会議開催にあたり会場設定等を行った権周炯氏（KOCEMA）、Mr. W. Y. Park（KATS）及び韓国の支援メンバーの努力に謝意を表し、またSC 1、WGの開催にあたり、Mr. T. Omura、Mr. D. Moss、Mr. T. Yoan、Mr. F. Wenzelの尽力に感謝し、閉会した。

次回は、2008年5月14日～16日中国で、再来年は、2009年5月6日～8日シカゴで開催予定とした。ただし、来年の中国は北京オリンピック開催の影響で日程変更の可能性もある。

4) その他のWG会議

以下5/10にWG 8の会議と併行して開催された2つの会議には、ポーランド、スウェーデン、ドイツ、米国、中国、日本（大村、渡辺が出席）の6ヶ国から計17名が出席した。

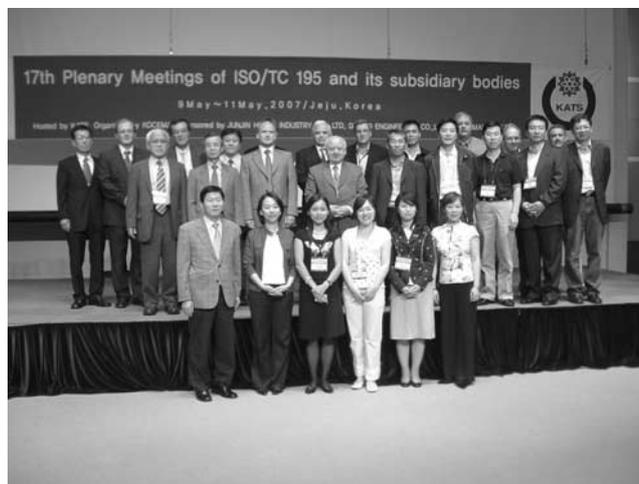
① ISO/TC 195/WG 5（道路機械）会議

－ISO/DIS 15878.2 Asphalt pavers - Terminology and commercial specificationsについて、審議結果を織り込んだFDIS案を幹事国が準備する。

－TC 127が作成したWork site data exchangeに関するISO/DIS 15143-1～3について、コメントを



写真一 2 ISO/TC 195/SC 1 会議風景



写真一 3 ISO/TC 195 会議出席者

求める（7月31日まで）。

－米国は、Self propelled sweepers – Terminology and commercial specifications のNWIPを再度提出する。

② ISO/TC 195/WG 7（手押し式締固め機械）会議

－ISO/DIS 19433（Pedestrian controlled vibratory plates）は承認され、審議結果を織り込んだ FDIS 案を幹事国が準備する（6月30日まで）。

－ISO/DIS 19452（Pedestrian controlled vibratory rammers）は承認され、審議結果を織り込んだ FDIS 案を幹事国が準備する（6月30日まで）。

－Impact force の測定方法については、引き続き検討を継続するが、土質等材料によって異なるエネルギーにすべき等、そのプロセス、スケジュール等多くのハードルを設定した。

3. その他

今回で17回目となる、この国際会議は、2004年にシカゴで開催した以外、例年 TC 195 の幹事国であるポーランドで開催してきましたが、今回は韓国がホストに名乗りを上げ、日本にとっては、往復が近く、ま

た開催場所のホテルの周りには何もなくて（あったとしても、英語はもちろん、日本語もまったくといってよいほど通じず、おまけにレストランのメニューなどはハンゲルだけで、何も出来ない？）、会議だけに専念出来てよかった（？）のかも知れません。

韓国は初めての私の第一印象として、空港からホテルまでのバスからの景色は、車が右側通行で看板がハンゲル文字であることを除くと、日本の田舎町と間違えてしまいそうなほど似たものでした。また食の方は、韓国イコール焼肉のイメージですが、日本では焼肉といえは牛肉が主なのに、済州島では黒豚が主（本土では違うかも？）とのことで、日本のように美味しいタレがあるわけでもなく、辛くてスパイシーなタレか塩で食べるだけで、改めて日本の食の美味しさ（自説：日本人の口に合せていることを割り引いても、フレンチ、中華、インド料理等どれをとっても本場よりも日本の方が美味しい）を再認識した次第です。おまけに電子辞書の助けを借りて、豚以外の肉を注文しようとしたら、犬しかないと言われて、話では聞いていたものの、ペットとして大の犬好きの私は固まりました。道理で散歩の犬などは見かけないわけです。 [J]CMA

（文責・阿部 裕）

「建設機械施工ハンドブック」改訂3版

近年、環境問題や構造物の品質確保をはじめとする様々な社会的問題、並びに IT 技術の進展等を受けて、建設機械と施工法も研究開発・改良改善が重ねられています。また、騒音振動・排出ガス規制、地球温暖化対策など、建設機械施工に関連する政策も大きく変化しています。

今回の改訂では、このような最新の技術情報や関連施策情報を加え、建設機械及び施工技術に係わる幅広い内容を取りまとめました。

「基礎知識編」

1. 概要
2. 土木工学一般
3. 建設機械一般
4. 安全対策・環境保全
5. 関係法令

「掘削・運搬・基礎工事機械編」

1. トラクタ系機械
2. ショベル系機械
3. 運搬機械
4. 基礎工事機械

「整地・締固め・舗装機械編」

1. モータグレーダ
2. 締固め機械
3. 舗装機械

● A4 版/約 900 ページ

● 定 価

非 会 員：6,300 円（本体 6,000 円）

会 員：5,300 円（本体 5,048 円）

特別価格：4,800 円（本体 4,572 円）

【但し特別価格は下記○の場合】

○学校教材販売

〔学校等教育機関で 20 冊以上を一括購入申込みされる場合〕

※学校及び官公庁関係者は会員扱いとさせていただきます。

※送料は会員・非会員とも沖縄県以外 700 円、沖縄県 1,050 円

※なお送料について、複数又は他の発刊本と同時に申込みの場合は別途とさせていただきます。

●発刊 平成 18 年 2 月

社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8（機械振興会館）

Tel. 03 (3433) 1501 Fax. 03 (3432) 0289 <http://www.jcmanet.or.jp>